

11 教員組織

進捗状況報告

			公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
○施策の目標の達成度を測る指標											
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)		公開	×	○	人	44.2	47.9	44.6	43.6	
○基礎的な状況を継続的に観測する指標											
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	公開	×	○	%	57.7	61.4	81.8	59.8	
		教養教育	公開	×	○	%	100.0	100.0	100.0	100.0	
指標3	専任教員一人あたりの授業時間数		公開	×	○	時間	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照
指標4	専任教員の年齢別構成 (分布)		公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表21参照
指標5	教員組織における女性教員の比率		公開	○	○	%	11.1	11.4	14.6	14.3	
指標6	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	公開	×	○	人	11	11	10	14	他に、契約助手1 (2005、2006、2007、2008年度)
		実験実習指導補佐・教務補佐	公開	×	○	人	8	8	6	6	
		授業補佐	公開	×	○	人	26	26	36	50	
指標7	本学出身の専任教員の構成比率		公開	×	○	%	20.0	20.5	20.8	20.4	
<small>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは学長室の進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部/各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</small>											

総合政策学部では、2009年度に都市政策学科ならびに国際政策学科の新設を予定しており、これにあわせて補充人事も含めて8名の新任教員を採用する。専門分野、年齢構成のバランス等を考慮して人選を進めているところである。他方、今後10年で20名が定年により退職する予定であるので、学部・研究科全体としての人事方針について早急に検討に着手する必要がある。

総合政策学部独自の人事であるALEの任期を4年から5年へと延長することを今後も続けて要望していきたい。

学内第三者評価

認証評価結果の総評において、「教員の年齢構成バランスについては、注意を要する。」との指摘を受けている点について改善が望まれる。新学科の補充人事(8名)および退職者(10名)をも含む長期(10名)の人事方針を模索する姿勢は認められる。その際、学部の将来計画をも考慮されることが考えられるが、次年度に全学一斉に実施される理念・目的等の再構築をも同時に視野に入れた人事方針について、今後、検討されることが望まれる。また、総合政策学部独自の人事であるALEの今後の扱いについても記述することが望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
 今後予定されている8名の新任教員採用に期待する。